

紅・黄・緑の更紗模様で私達を魅了した紅葉の季節が去った「到津の森」の休日。「姿見の池」横から始まる切通しの崖には、常緑のシダ類が静かに過ごしています。

全体に変化の少ない緑色で、バラやユリのような花をつけない隠花植物のシダ類は、どれも同じように見えますね。でもつれづれ眺めていると、ベニシダ・ハシゴシダ・ホシダ・ウラジロ・コシダ・ミゾシダ等が見られ、夏緑性のゼンマイ・カニクサもまだ頑張っています。

シダ類は湿った所に生え、陰気に感じられます。でも観察し始めるとなかなか面白い。

たとえば、葉の裏についているあの気味悪い孢子。種類によって全て孢子の形や色は違い、保護する膜（包膜）に包まれているもの、むき出しのもの、あるいは一個体でありながら、光合成で栄養を作る働きの「栄養葉」、そこに特定の時期に孢子をだけに特化した「孢子葉」が出てくるもの。コケのようなシダ、暖地には人よりも背の高くなる木性シダ類というものまで有ります。

それから春の山菜ツクシはスギナの孢子の集まり。ゼンマイ・ワラビも代表的なシダ類の若い姿です。

近づくお正月にはウラジロを作った注連飾り等を用意します。ウラジロはシダ「菌朶」とも呼ばれ「菌」は年齢「朶」は長寿を意味し、まこと年迎えにふさわしい植物。

電話帳に二・三日挟んで額に入れれば、ちょっとお洒落なインテリア。モダンにもシックにも違和感ありません。

こんなに楽しいシダ類をはじめ自然に居ついた植物を育む切通しの崖は「到津の森」の宝の一つと思えます。

花 曆 師 走

文：花咲くおばさん

～ 飼育員の想い～

動物園をもっと楽しむ方法を知っていますか！？

動物を見る・・・これだけでも十分ですが、動物のことを少し知るだけでもっと楽しくなります。例えば、全然知らない人の名前を知ると親近感が湧く、そんな感じ。(笑)

さてみなさん、動物たちの周りに目を向けてみたことありますか？実は動物たちを知るためのヒントがあるのです・・・それは解説サイン！いわゆる看板ですね。

私たち飼育スタッフは、来園者の方に個体の見分け方や体のつくりなどを知っていただくことでより動物の魅力を伝えたいという想いを込めて看板を制作しています。(仕掛けがあるものも♪)

また、動物により楽しい環境で生活してもらいたいため放飼場に工夫を行っています。例えば、エリマキキツネザル。放飼場にはツタのようなものが張り巡らされています。実はコレ・・・スタッフお手製ロープなのです。樹上生活者であるエリマキキツネザルの行動を引き出したいという想いからこのロープが生まれました。

(「エンリッチメント大賞 2008」の

敢闘賞を受賞)



動物と共に・・・今までは何気なく通り過ぎていた看板たちにも注目してみてください。新たな発見があるかも！来園者の方々に動物の魅力を伝えたい、動物にも楽しんでもらいたいという想いを持って、私たちはこれからも頑張りたいと思っています。

飼育展示係 東條 裕子